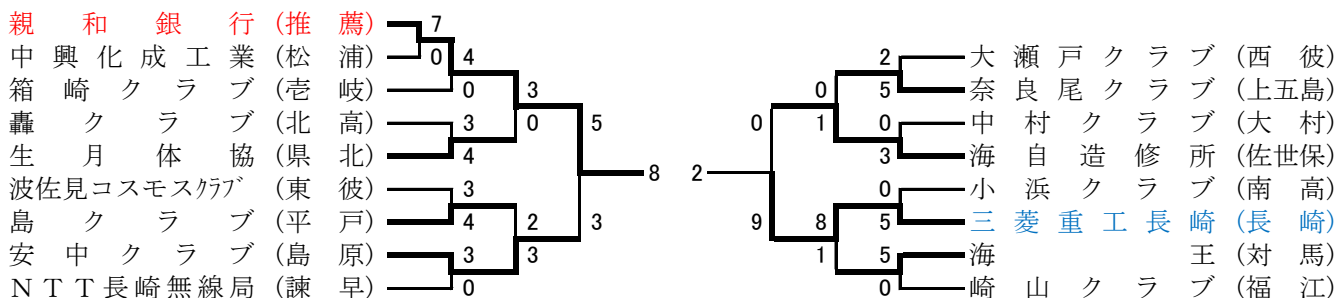


親和VS重工の2年連続決勝対決は親和が連覇し5度目のV

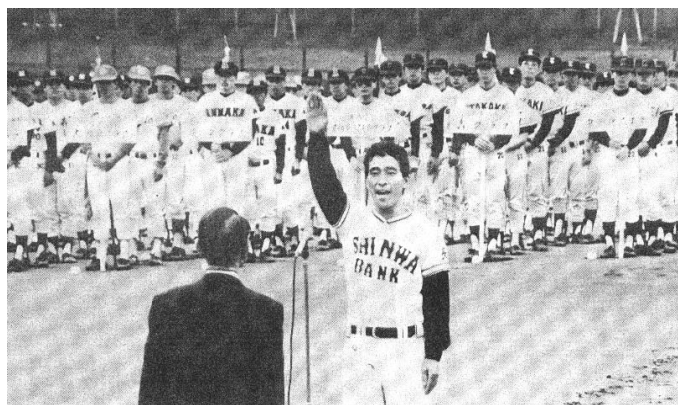
第36回長崎県軟式野球選手権大会

会期： 昭和61年10月24日(金)～26日(日)
会場： A・大橋球場 B・三菱球場



第36回県軟式野球選手権大会は第1日の24日、長崎市宮大橋、三菱両球場で二回戦7試合が行われ、前年度優勝の親和銀行などが順当に三回戦に進出。両球場の最終試合「安中クラブーN T T長崎無線局」「海王ー崎山クラブ」は雨のため二回終了時点でいずれも打ち切れられ25日の継続試合となった。大橋球場では親和銀行が一回戦で中興化成工業に7-0の五回コールド、二回戦でも箱崎クラブを4-0で圧倒。生月体協は4-3で轟クラブにサヨナラ勝ち。波佐見コスモスクラブと島クラブは2-2のまま一死満塁制の延長となり、八回に1点リードされた島クラブがその裏2点を返して、逆転サヨナラ勝ちを収めた。三菱球場は二回戦のみ。奈良尾クラブは大瀬戸クラブを5-2で撃破。海自造修所、三菱重工長崎はいずれもエースが快投、ノーヒットノーランでそれぞれ中村クラブ、小浜クラブを抑え込み三回戦へコマを進めた。大橋球場の安中クーN T T長崎無線局は0-0、三菱球場の

海王ー崎山クは2-0とそれぞれ二回を終了時点で雨がひどくなり大会本部が中止を決定、25日に継続試合となった。



開会式で選手宣誓をする親和銀行の久住呂浩司主将

好機生かした攻撃

親和楽勝 中興、佐々田に手こずる

【一回戦】=大橋：第1試合= 振球犠盗失残併

親和銀行	105 10	7	3	3	1	8	2	3	2
中興化成工業	000 00	0	2	2	0	0	1	3	0

(5回コールド) 1時間27分

【評】親和のチャンスにたたみかける攻撃力は見事。計7本の長短打に足を絡めて7点をもぎ取り五回コールド勝ちを収めた。先発佐々田は速球をコーナーに散らし打たせてとるピッチングで中興打線をわずか1安打に抑えた。四回一死で継投した志賀は立ち上がりやや制球に苦しんだが、まずまずの出来。最終回に守備の失策が続いたが併殺で切り抜けた。

中興は三回に5点を奪われてからは好守に雑さが目立った。

【三】川崎
田中

【親和】打安点

③久住呂	2 0 1
⑥岩崎	2 0 0
②黒石	3 1 2
⑦川崎	2 1 1
⑧上杉	3 2 2
⑨田中	3 1 0
⑤竹山	3 1 1
①佐々田	2 0 0
1志賀	0 0 0
④高柳	1 1 0

21 7 7

【中興】打安点

②大崎	2 0 0
⑨佐藤	2 1 0
④井上	1 0 0
⑥永利	2 0 0
③岩本	2 0 0
①久保川	2 0 0
⑧末永	2 0 0
⑦尾野	1 0 0
⑤澤田	2 0 0

16 1 0

生月サヨナラ勝ち 轟の追撃もむなし

【二回戦】=大橋：第2試合= 振球犠盗失残併

轟クラブ	000 000 3	3	7	5	1	1	1	9	0
生月体協	110 001 1x	4	1	4	3	7	0	6	0

【三】白浜【二】久世、松山

1時間52分

【評】3点を先行された轟クは七回同点に追いついたがその裏に生月が劇的なサヨナラ勝ちをした。

生月は走者が出ると犠打で手堅く得点に結びつけ先発横山も右上手から緩急織り交ぜた投法で自軍の得点を守り抜く。最終回に2連打されて制球を乱し押し出しを含め3点を献上したが、味方打線の活躍に助けられた。

轟の先発久世は右サイドハンドから伸びのある球を投げたがカーブの切れが今ひとつだった。

◇個人テーブルと写真は次ページに記載◇

【轟ク】打安点	【生月】打安点
⑤谷端 4 0 0	③白浜 4 2 1
⑦浜崎 1 0 0	④山本 2 0 0
⑥道副 3 0 1	①横山 2 0 1
③前田 4 1 2	②山中 2 0 0
④東川 4 1 0	⑦山浦 1 0 1
②中山 3 1 0	⑧宮崎 2 1 0
⑧里山 2 0 0	⑤船原 2 0 0
①久世 3 2 0	⑨松山 3 1 1
⑨伊東章 1 0 0	⑥坂口 3 1 0
4 山口辰 2 1 0	21 5 4
27 6 3	



2回裏生月2死三塁、投ゴロの間に宮崎がホームにつき2点目を挙げる

親和、機動力で快勝 光る箱崎・大村の好投

【親和】打安点	【箱崎】打安点
③久住呂 3 1 0	⑧2 浜口 3 0 0
⑥岩崎 4 1 1	④川上 1 0 0
⑨7 黒石 3 1 1	③1 大村 2 0 0
⑦川崎 1 0 0	⑩3 真鍋 2 0 0
9 宮添 2 1 0	②加藤 1 0 0
⑧上杉 2 0 0	8 高下 1 0 0
②米倉 3 1 0	⑦馬渡 2 0 0
⑤竹山 1 0 0	⑤深見 2 0 0
①志賀 2 0 1	⑥前田 2 1 0
④高柳 3 1 1	⑨市岡 2 0 0
25 6 4	18 1 0

【二回戦】=大橋：第3試合= 振球犠盗失残併 (6回時間切れ)

親和銀行	101 200	4	1	3	2	#	0	7	1
箱崎クラブ	000 000	0	9	1	0	0	2	1	0

【評】親和が持ち前の機動力を見せつけ快勝した。確実なミート打法で出塁したら必ず走る攻撃パターンで相手守備をほんろうし盗塁11個を記録。初戦に続いて投げた志賀は硬さも取れ低めに球を集めて落差の大きなカーブでし留める。あわやノーヒットノーランかと思われたが六回、一ゴロがラッキーな内野安打となり惜しくも記録を逃した。箱崎の先発真鍋は球威はあるが球が高めに浮いた。五、六回を投げた大村は親和打線を1安打に抑えたのは立派。

島クラブが逆転サヨナラ

【二回戦】=大橋：第4試合= 振球犠盗失残併

波佐見コスモス	000 110 01	3	4	3	0	2	3	4	0
島クラブ	100 010 02x	4	1	1	1	1	0	3	0

(延長八回一死満塁制) 1時間55分

【評】六回まで2-2のまま時間切れ。一死満塁制の延長8回に島クラブが逆転勝ちを飾った。島クは初回2安打で先取点を奪ったがその後打線は沈黙。五回には逆転されたものの、その裏に9番松山の気迫の三塁打で再び試合を振り出しに戻して八回のサヨナラ。挙げた得点はすべて相手失策絡みでラッキーな勝利といえよう。

【島ク】打安点
⑤永田 3 0 0
⑨松本 3 0 0
⑧本田 3 1 0
⑥田中 3 1 1
①山見 3 0 0
③米原 2 0 0
⑦平松 1 0 0
H 幸谷 1 0 0
②柳本 1 0 0
④松山 2 1 1
22 3 2

【大瀬戸】打安点

④北川 4 1 0
⑤坂口 3 2 0
⑥宮口 2 0 0
②山添 2 1 0
⑦大抜 3 0 0
①浦上 3 0 0
⑧神浦 3 0 0
⑨小橋 2 0 0
9 宮島 1 0 0
③橋口 2 0 0
H 宮森 0 0 0
25 4 0

森が2点ホーム

【二回戦】=三菱：第1試合= 振球犠盗失残併

大瀬戸クラブ	000 101 0	2	10	3	0	1	2	5	0
奈良尾クラブ	000 131 X	5	3	5	1	3	2	5	0

【本】山脇、森 【二】鼻崎 1時間39分
【評】1-1で迎えた五回の奈良尾の攻撃が試合を決めた。四球と敵失で無死一二塁のチャンスを作り捕逸で二三塁のあとスクイズ。相手バッテリーにはずされたが三走の津田がうまく挟殺プレーをかいぐって1点。さらに一死三塁でトップの森が右に2点本塁打して大瀬戸クラブを突き放した。大瀬戸は四回に敵失で、六回には2安打と暴投で1点ずつを返したのが精いっぱい。奈良尾の左腕・平田に10三振を喫した。

【奈良尾】打安点
⑧森 4 2 3
①金崎 3 1 0
④平田 3 0 0
③山脇 3 1 1
②宮崎 2 0 0
⑨鼻崎 2 1 0
9 小柳 0 0 0
⑥津田 2 0 0
6 江尻 0 0 0
⑦植村 2 0 0
⑤浜村 1 0 0
22 5 4

海自の小浜好投 ノーヒット ノーラン 中村打線振るわず

【二回戦】=三菱：第2試合= 振球犠盗失残併 1時間49分

中村クラブ	000 000 0	0	11	0	0	0	1	2	0	(中断1時間21分)
海自造修所	010 200 X	3	2	2	1	3	0	4	0	【二】武富

【評】海自造修所のエース小浜が快投した。重い速球と大きなカーブを巧に織り交ぜ中村ク打線から11奪三振とノーヒットノーラン。しかも出した走者は味方失策の二人のみで完璧な内容だった。

海自は下位打線が活躍。池田、武富、吉原の下位打者が各1打点を挙げ四回の3連続長短打は見事だった。中村クは降雨中断が響いたのか最後まで調子が出ずじまい。二塁まで進んだのが一度だけではどうにもならなかった。

【中村】打安点	【海自】打安点
⑤岩崎 3 0 0	⑦蔵ヶ崎 3 0 0
④佐藤 3 0 0	⑥山崎光 3 1 0
①井田 3 0 0	①小浜 2 0 0
⑥林 3 0 0	②金納 3 0 0
⑧西原 3 0 0	③志方 2 0 0
③清水 2 0 0	⑧浜田 3 0 0
⑨桑原 2 0 0	⑨池田 2 1 1
⑦広瀬 2 0 0	④武富 2 1 1
②角西 2 0 0	⑤吉原 2 1 1
23 0 0	22 4 3

三菱4回に集中打 有田が無安打 無得点試合 拙攻で小浜泣く

【二回戦】=三菱：第3試合= 振球犠盗失残併

三菱重工長崎	010 400 0	5	8	5	1	1	0	5	0	【三】奥菌
小浜クラブ	000 000 0	0	10	2	0	1	2	1	0	1時間30分

【評】優勝候補の一角、三菱重工の左腕・有田が無安打無得点試合を達成。打っては四回に4安打を集中して一挙4点を奪い小浜クラブに完勝した。立ち上がりから肩の力を抜いてテンポのいい投球を見せていた有田はコーナーをていねいに突く速球でカウントをかせぎ落差のあるカーブで小浜打線を手玉にとった。二回二死から四死球を続けたが、相手の拙攻に助けられさらにリズムに乗った形。決局10奪三振で外野へ飛んだのは1本という素晴らしいピッチングだった。

【三菱】打安点
⑧高村 3 1 2
2田中 1 0 0
⑥本多 3 1 1
③高岡 4 0 0
⑤85川上 4 0 0
⑦井上 3 1 0
⑨宇都 1 0 0
98前田 1 0 0
②5奥菌 1 1 1
H9上内 0 0 0
①有田 3 1 1
④江越 1 0 0
25 5 5

【小浜】打安点
⑥田中 3 0 0
⑤3関剛 2 0 0
H岡村 1 0 0
④39佐藤 2 0 0
H中村 1 0 0
③21山口 3 0 0
⑧岩永 2 0 0
⑨2入江 1 0 0
⑦原田 1 0 0
7増田 0 0 0
①5荒井 2 0 0
②進藤 1 0 0
4関光 1 0 0
20 0 0

【二回戦】=大橋：第5試合=

安中クラブ	00	高木-石山
長崎無線局	00	大石-富高
(二回終了、継続試合)		

【二回戦】=三菱：第4試合=

海王	11	中庭-永留
崎山クラブ	00	中村-出口
【三】神宮(海) (二回終了、継続試合)		

第二日は大橋球場で二回戦の継続試合2試合と三回戦4試合が行われ、親和銀行、安中クラブ、海自造修所、三菱重工長崎がベスト4進出を果たした。

初日に二回終了時点で継続試合となった二回戦は、海王が崎山クラブに5-0で勝ち、安中クラブは高木がNTT長崎無線局を相手にノーヒット・ノーランに抑え3-0で快勝した。

優勝候補筆頭の親和銀行は生月体協にやや苦戦したが佐々

田が生月打線を1安打完封3-0で下した。安中クラブ-島クラブはシーソーゲームとなり、安中が最終回逆転に成功し3-2で島クを振り切った。海自造修所-奈良尾クラブは両エースの投げ合いで緊迫した試合となったが、最終回到海自の4番金納が値千金の一発を左翼席にたたき込み決着。強豪三菱重工長崎は海王に8-1でコールド勝ちした。

(昭和61年10月26日付けの長崎新聞より抜粋)

高木 ノーヒット ノーラン 記録

◆第1試合◆【二回戦】 振球犠盗失残併

安中クラブ	001 002 0	3	3	2	1	2	0	3	0	1時間21分
長崎無線局	000 000 0	0	5	2	1	2	1	2	0	【二】大町好

【評】安中ク・高木、無線局・大石両エースの投げ合いは、ノーヒット・ノーランを記録した高木に軍配は上がった。

右サイドハンドからシュート、カーブを配す高木は、抜群の制球力に球のキレが加わり長崎無線局打線はなかなかシンで捕らえきれない。四回以降は3人ずつでピシヤリと抑えられる素晴らしい内容。バックを信頼して打たせて取る高木の真骨頂が随所に見られた。

【安中】打安点
⑥橋本 1 0 0
H9平山 2 0 0
⑨4大町信 3 1 1
⑤堀本 2 0 0
③大町好 3 2 1
④6坂本 2 1 1
⑧出田 3 0 0
②石山 3 0 0
⑦井上 3 0 0
①高木 2 0 0
24 4 3

【無線局】打安点
⑧田村 2 0 0
④岩永 3 0 0
①大石 3 0 0
⑥岩井 2 0 0
⑦新屋 2 0 0
③池田 2 0 0
⑨天達 2 0 0
②富高 2 0 0
⑤永江 2 0 0
20 0 0

海王に勝負強さ

【海王】打安点

②永留	2 0 0
③森崎	4 2 3
⑤倉光	3 1 1
①中庭	3 1 0
⑨79神宮	3 1 0
④毛越	3 0 0
⑥山城	2 0 0
H7椛田	1 0 0
⑧6大川	3 0 0
⑦98西	3 0 0
<hr/>	
	27 5 4

◆第2試合◆【二回戦】 振球犠盗失残併

海王	112 010 0	5	3	1	1	3	0	3	2
崎山クラブ	000 000 0	0	2	1	0	1	3	4	1

【崎山】打安点

⑧佐々野	3 0 0
⑨荒木	3 1 0
①6中村	3 2 0
⑥1平田	3 0 0
③4中山	2 0 0
⑦山下	3 0 0
④5小田和	2 2 0
H江頭	1 0 0
⑤2小田伍	2 0 0
②4出口	2 0 0
<hr/>	
	24 5 0

【本】森崎 【三】神宮 1時間26分

【評】チャンスを実確にものにした海王、最後の1本が出なかった崎山クラブ。勝負強さの差が結果に出た。

海王は初回、敵失と暴投で一死三塁とし倉光の右前打で1点。二回にも三塁打の神宮がまたも暴投で還り2点目。三回は敵失出塁の西を三塁に置いて森崎が右翼席へ豪快に2ランして崎山クを突き放した。

エース中庭も打者の打ち気を巧みに誘い、スローカーブで打ち取る投球がさえた。

親銀 労せず先取点 佐々田が1安打完封

◆第3試合◆【三回戦】 振球犠盗失残併

親和銀行	200 001 0	3	5	1	0	3	1	6	0
生月体協	000 000 0	0	3	0	0	1	3	1	0

1時間31分

【三】上杉、米倉 【二】米倉、山本

【評】親和は初回、先頭打者の久住呂が四球のあと暴投と捕手の三塁悪送球で労せずして先取点をものに、さらに上杉、米倉の連打で2点目。六回にも米倉の三塁打などでダメ押しした。先発佐々田も球威のある速球、カーブで低目をていねいにつき、生月打線をわずか1安打に抑えた。

生月の先発横山は手元で伸びる直球にスローカーブを交え好投したが好守の援護がなかった。しかし優勝候補相手に善戦したといえるだろう。

【親和】打安点	【生月】打安点
③久住呂 3 0 0	③白浜 3 0 0
⑥5岩崎 4 0 0	④山本 3 1 0
⑦黒石 4 0 0	①1横山 3 0 0
⑧上杉 3 0 0	②山中 3 0 0
②米倉 3 2 1	⑦山浦 2 0 0
⑨田中 3 1 0	8大石 0 0 0
⑤竹山 2 0 0	⑧71宮崎 2 0 0
6与那嶺 1 0 1	⑤船原 2 0 0
①佐々田 3 0 0	⑨松山 1 0 0
④高柳 3 0 0	H9田淵 1 0 0
<hr/>	
29 3 2	⑥坂口 2 0 0
	22 1 0

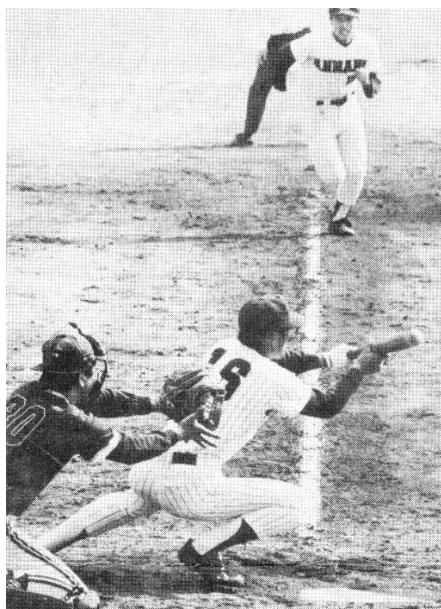
安中ク 終回到逆転 池田 同点スクイズ決める

◆第4試合◆【三回戦】 振球犠盗失残併 1時間40分

安中クラブ	000 100 2	3	0	2	2	3	1	4	0
島クラブ	001 100 0	2	2	0	2	1	1	5	0

【三】橋本

【二】出田



【評】実力伯仲の好ゲーム。早朝からの継続試合を完勝し波に乗る安中が最終回到逆転し粘る島クラブを振り切った。

1-2とリードされた七回の安中は先頭の出田が左越二塁打。高木の一ゴロの間に三進したあと池田がスクイズバントを決め同点。さらに橋本が右越三塁打の二死三塁で大町の三ゴロを一塁手が落球の間に橋本が還り勝ち越した。

島クラブのエース柳本はよく投げた。最終回到長打攻勢を受けたが、六回まで安中を3安打に抑えたのは立派。

絶妙 七回表安中クラブ一死三塁に池田のスクイズ・バントが決まり三走の出田が同点のホームイン

【島ク】打安点	【安中ク】打安点	
⑤永田 4 1 0	④1大町信 3 1 0	
⑨松本 2 0 0	⑨平山 2 0 0	
⑧梅木 0 0 0	⑥5堀本 3 0 0	
H8本多 3 2 1	②大町好 2 0 0	
⑥田中 3 0 0	⑦井上 3 1 1	
④松山 3 2 0	⑧出田 3 1 0	
②山見 2 1 0	①43高木 3 1 0	
⑦尾崎 0 0 0	⑤4池田 2 0 1	
7平松 1 0 0	③小鉢 1 0 0	
H7幸谷 2 1 1	6橋本 2 1 0	
①柳本 3 0 0	<hr/>	
③米原 3 0 0		24 5 2
<hr/>		
26 7 2		

海自 投手戦を制す 終回到金納が決勝アーチ

【海自】打安点

⑥山崎	3	1	0
⑦蔵ヶ崎	3	0	0
①小浜	3	1	0
②金納	3	1	1
③志方	3	0	0
⑨池田	3	1	0
⑧浜田	2	0	0
④武富	2	0	0
⑤吉原	2	0	0
24 4 1			

◆第5試合◆【三回戦】 振球犠盗失残併

海自造修所	000 000 1	1	5	1	0	0	1	3	0	1時間21分
奈良尾クラブ	000 000 0	0	2	1	0	0	0	3	0	【本】金納

【評】息詰まる投手戦となったが最終回到一発の本塁打で海自に軍配が上った。
海自のエース小浜は右の本格派。立ち上がりからぐいぐい押しまくり奈良尾打線を2安打に抑え込む。一方、奈良尾のエース平田も左上手から落差の大きなカーブを決め球に六回まで3安打の好投。0-0のまま迎えた七回表、海自の4番金納は2-2からの内角高めの直球を左翼スタンドにたたき込み、均衡を破った。

【奈良尾】打安点

⑧森	2	0	0
④金崎	3	0	0
①平田	3	1	0
③山脇	3	0	0
②宮崎	3	0	0
⑨鼻崎	3	0	0
⑥津田	2	1	0
⑦植村	2	0	0
⑤浜村	2	0	0
23 2 0			

【三菱】打安点

⑧高村	4	0	0
⑥本多	2	0	1
⑦井上	3	2	2
①5川上	3	0	0
③高岡	2	1	1
②奥	1	1	0
1小林	1	0	0
1有田	0	0	0
⑤2田中	1	1	0
④江越	2	1	2
H4桜木	1	0	0
⑨前田	1	0	0
H9上内	1	0	0
22 6 6			

◆第6試合◆【三回戦】 振球犠盗失残併 1時間19分

三菱重工長崎	080 00	8	4	5	1	4	0	5	0	【三】高岡
海王	000 10	1	4	2	0	0	3	6	0	【二】西

【評】強打の三菱重工打線を継投でかわそうとした海王だったが、二回には早くも捕まった。先発の中庭がいきなり三塁打を浴び四球を続けて無死一三塁としたところで二番手の吉野と交代。吉野の制球が定まらないところを三菱打線につけ込まれ、2安打4四死球2失策で一挙8点を奪われてしまった。
三菱の得点がこの回だけなのをみても、海王にとってはいかに誤算だったかがよく分かる。海王の四回の1点は気迫で取り返したものの。中庭の左前打、西の右中間二塁打とも会心の当たりだった。

【海王】打安点

②永留	3	0	0
⑤倉光	3	0	0
③森崎	2	2	0
①6中庭	2	1	0
⑨神宮	3	0	0
④毛越	2	1	0
⑦西	2	1	1
⑧大川	2	0	0
⑥山城	0	0	0
1吉野	1	0	0
H 梶田	0	0	0
20 5 1			

最終日は大橋球場で準決勝、決勝が行われ親和銀行が三菱重工長崎を8-2の大差で下し2年連続5回目の優勝をした。抜群の守備力と機動力で勝ち上がった親銀と猛打で相手をねじ伏せてきた三菱重工との決勝は降りしきる雨の中、初回到相手投手の乱れに乗り重盗などで3点を先取した親銀が着々と加点。四回までに7点を挙げ最終回にもダメ押し点を追加。守っては佐々田が三菱打線を4安打2点に抑えた。

準決勝第1試合は実力に勝る親銀が安中クラブの高木を攻略し初回と六回到計5点を奪ったが、安中もしぶとく反撃。六回到初安打して勢いに乗り4長短打で一気に3点を返したところで時間切れ。結局5-3で親銀が逃げ切った。第2試合は三菱重工の猛打が初回から爆発、12安打中8本の長打で海自造修所を9-0の5回コールドで下した。
(昭和61年10月27日付けの長崎新聞より抜粋)

安中ク、健闘及ばず 王者・親和銀行タジタジ

【親和】打安点

③久住呂	3	1	0
⑤岩崎	3	0	0
⑦黒石	2	1	0
⑧上杉	3	1	1
②米倉	3	2	0
⑨宮添	3	2	2
⑥与那嶺	3	0	0
①高藤	3	1	1
1志賀	0	0	0
④高柳	3	0	0
26 8 4			

◆第1試合◆【準決勝】 振球犠盗失残併

親和銀行	300 002	5	3	1	0	7	0	4	0	1時間48分
安中クラブ	000 003	3	0	1	0	1	2	2	0	(6回時間切れ)

【三】黒石、高藤 【二】宮添、大町好

【評】親和銀行相手に安中クラブが大健闘。六回時間切れで反撃機を逃したが、昨年の王者に冷や汗をかかせた。
試合展開は終始親和ペース。初回到2短長打と敵失などで3点先取。六回到にも米倉、宮添の連打と高藤の右中間三塁打で2点を追加、5-0とし焦点は好投を続けるエース高藤のノーヒットノーランのみに絞られたかにみえた。
しかし、安中クは六回到代打の池田が初安打で出塁し大町信、石山が連打して一死満塁。堀本の一ゴロでまず1点。続く大町好が左越えエンタイトル二塁打して二者がかえり計3点を返したが反撃もここまで。六回表の親和の2点が大きいのしかかった。

【安中ク】打安点

⑨7大町信	3	1	0
②石山	3	1	0
⑥堀本	3	0	1
③大町好	3	1	2
⑧出田	3	0	0
④古瀬	2	0	0
①高木	2	0	0
⑦園田	0	0	0
9下田	2	0	0
⑤吉中	0	0	0
H池田	1	1	0
22 4 3			

海自造修所が沈黙 三菱重工、長打攻め

【三 菱】打安点

⑧ 高 村	2	1	1
H9 上 内	1	1	0
④ 桜 木	4	1	0
⑦ 井 上	3	3	4
H7 峰	1	1	1
① 川 上	3	1	2
③ 高 岡	2	2	1
H3 宇 都	1	0	0
② 奥 藪	2	0	0
5 江 越	1	0	0
⑤ 2 田 中	3	0	0
⑥ 本 多	3	1	0
⑨ 8 前 田	2	1	0

28 12 9

◆第2試合◆【準決勝】

三菱重工長崎	251 01	9	1	2	1	2	0	7	0
海自造修所	000 00	0	2	1	0	0	2	2	0

1時間17分

【海 自】打安点

⑥ 山 崎 光	1	0	0
⑧ 浜 田	2	0	0
① 小 浜	2	0	0
② 金 納	2	1	0
③ 9 志 方	2	0	0
⑨ 3 池 田	2	0	0
⑦ 蔵 ヶ 崎	2	0	0
④ 武 富	1	0	0
H 綾	1	0	0
⑤ 吉 原	1	0	0

16 1 0

(5回コールド)
 【三】井上2、高岡 【二】桜木、高岡、川上、本多、峰
 【評】三菱が長打攻勢で海自を圧倒した。初回2点を先取した三菱は二回に敵失と海自・小浜の制球難などで二死満塁。ここでクリーンアップの井上、川上、高岡が見事な連続長打を繰り出し一挙5点を奪い早くも大勢を決めた。海自は二回、先頭の金納が右前に放ったのがこの試合唯一のヒット。出塁したのはこの回と三回二死から山崎光が四球に歩いた二度だけで、あとは三菱・川上の好投に打線が沈黙した。三菱は三、五回にも合わせて6本の長短打を小浜に浴びせて2点を追加し海自につけ入るスキを与えず快勝した。

親和銀行 連続V 鮮やか速攻 佐々田も力投 三菱重工の強力打線不発

通算5回目

◆第3試合◆【決勝】

親 和 銀 行	301 300 001	8	5	4	2	4	2	5	0
三菱重工長崎	000 200 000	2	8	3	0	0	4	8	1

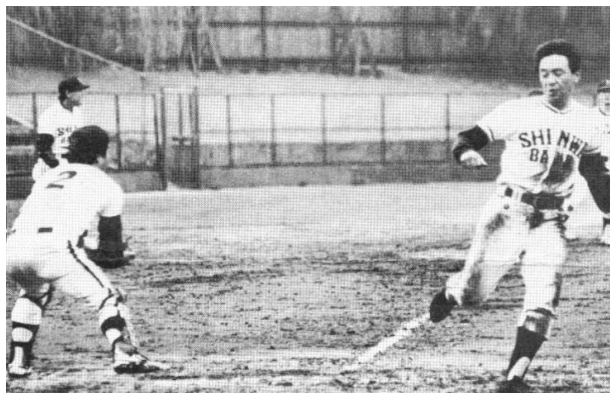
【三】黒石 【二】黒石 2時間31分

【評】親和銀行の機動力と三菱重工のパワーとの対決が見どころだった決勝戦。三菱の強打が親銀の先発佐々田の前に沈黙、初回から親銀の一方的な試合となり思わぬ大差がついた。親銀初回の速攻は見事だった。三菱のエース有田の立ち上がりを攻め連続四球で一死一二塁とし、打者上杉の3球目に重盗を決め二三塁。上杉が前進守備の二遊間を抜き二者生還。さらに敵失と四球で満塁。与那嶺の一ゴロで上杉がホームを踏み3点を先取した。三回にも1点を追加。四回には四球と敵失で1点、続く岩崎と黒石の短長打で2点を加え試合を決めた。

左上手投げの佐々田は伸びのある速球を低めに決め、カーブ、スライダーで打者のタイミングをはずす絶妙の投球。四回にやや制球を乱し味方の失策で2点は奪われたが三菱打線を4点に抑える力投。

三菱打線はやや力に頼りすぎて大振りが目立った。守備でも4失策といところがなく、有田も完投はしたものの本来のキレがみられなかった。

閉会式で優勝旗、優勝楯、松浦連盟会長杯が親銀に、準優勝楯などが三菱重工に贈られ、殊勲賞に佐々田俊則投手(親銀)、打擊賞に井上義雄選手(三菱)、敢闘賞に高柳伸介選手(親銀)が選ばれた。



4回表親和銀行一死三塁、岩崎の左前打で三走の久住呂が6点目のホームを踏む

【親 和】打安点

③ 久 住 呂	4	0	0
⑤ 岩 崎	4	1	1
⑨ 黒 石	4	3	2
⑧ 7 上 杉	5	1	2
② 米 倉	4	0	0
⑦ 川 崎	1	1	1
R8 古 川	2	1	0
⑥ 与 那 嶺	4	0	1
① 佐 々 田	3	0	0
④ 高 柳	3	2	0

34 9 7

【三 菱】打安点

⑧ 高 村	4	0	0
H 桜 木	1	0	0
④ 本 多	4	0	0
⑦ 井 上	3	0	0
⑥ 川 上	4	1	0
③ 高 岡	4	0	0
② 奥 藪	3	2	0
⑤ 田 中	3	1	0
① 有 田	3	0	0
H 江 越	1	0	0
⑨ 前 田	3	0	0

33 4 0

◆親和銀行・宮本博久監督の話

選手全員がやるべきことをすべてやった結果が出た。指示するまでもなく選手たちは何をすべきか、よく分かっていたと思う。投手陣の調子もよくうまく打線とかみ合った。ことしは国体に出場できず残念だったが、来年からは県のチャンピオンとして常に全国でベスト4に入れるようなチームを作りたい。

昭和61年に開催されたその他の競技会

第8回西日本1部・県予選(諫早)

(長崎)十八銀行(佐世保)水道局(諫早)信用金庫(大村)市役所(島原)市役所(平戸)島ク(松浦)市役所(福江)富江ク(東彼)田川スラッガー(西彼)池島鉱業所(南高)小浜ク(北高)小長井ク(県北)全江迎(上五島)舛田グループ (14チーム)

第8回西日本軟式野球大会〈1部〉 6/27～・沖縄県

小浜クラブ【一】 3-1 横山病院(高知)
 〃 【二】 5-0 山大スターズ(山口)
 〃 【準々】 9-3 和電パワーズ(和歌山)
 〃 【準】 1-3 住友別子野球部(愛媛)

高松宮賜杯第30回1部・県予選(島原)

(長崎)長崎日野自動車 (佐世保)闘将クラブ
 (諫早)日本冷熱 (大村)市役所
 (島原)島原市役所 (平戸)島クラブ
 (松浦)肥前クラブ (福江)崎山クラブ
 (東彼)東芝セラミックス (西彼)電源開発
 (南高)愛野クラブ (北高)小長井クラブ
 (県北)全江迎 (上五島)舛田グループ
 (老岐)石田ジャガーズ (対馬)海王 (16チーム)

優勝=海王 九州ブロック(大分)で敗退

第8回西日本2部・県予選(大村)

(長崎)機関区(佐世保)魚弘ファイター(諫早)小川仏具(大村)中村ク(島原)安中ク(平戸)電友ク(松浦)松浦ク(福江)九電福江(東彼)波佐見ジャイツ(西彼)海外ク(南高)愛野ク(北高)飯盛ク(県北)小佐々ク(上五島)パジャース (14チーム)

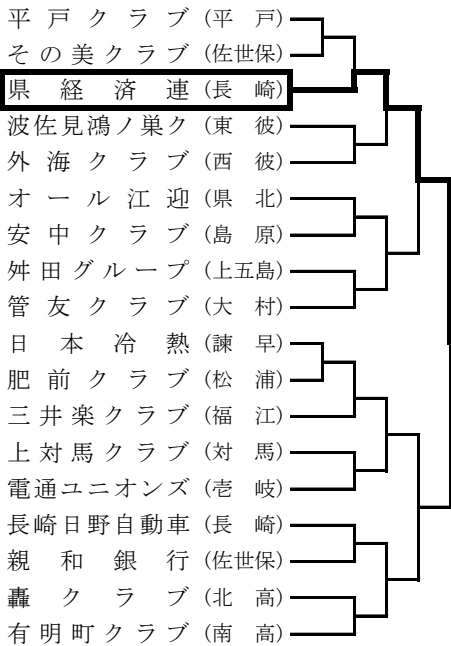
第8回西日本軟式野球大会〈2部〉 5/9～・佐賀県

愛野クラブ【一】 2-0 八幡クラブ(長崎)
 〃 【二】 1-2 鳥栖・三養基地区消防署(佐賀)

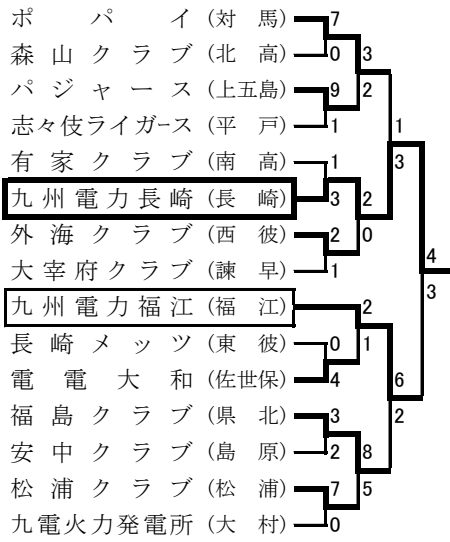
第9回九州連合会長杯・県予選(島原)

(長崎)三菱重工、県経済連
 (佐世保)親和銀行、海自造修所
 (諫早)長崎無線局 (平戸)平戸クラブ
 (松浦)御厨クラブ (東彼)鴻ノ巣クラブ
 (南高)有明町クラブ (北高)轟クラブ
 10チーム参加 優勝=親和銀行

天皇賜杯第41回・県予選(佐世保)

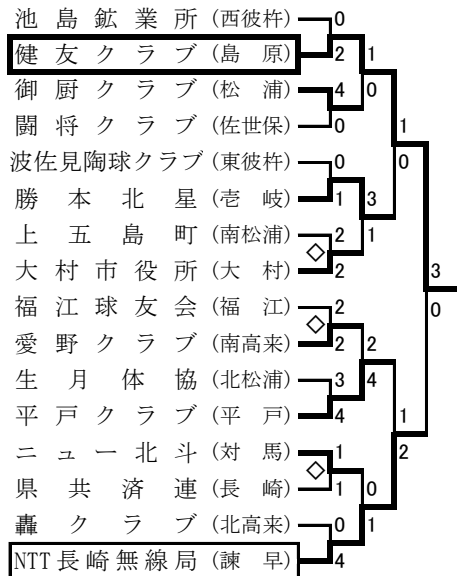


高松宮賜杯第30回2部・県予選(大村)



九州ブロック(熊本)で敗退

第38回長崎県民体育大会



◇ 同点スコアは抽選による ◇

天皇賜杯第41回全日本軟式野球大会 9/13～・福島県

【一】 長崎県経済連 1-4 千葉銀行

第41回山梨国体は、不出場

この年(S. 61年)より軟式野球ボールの呼称が変わった。従来までのL号(一般用)がA号に、A号(中学生用)がB号に、B号(準硬式)がH号となった。

また打者用ヘルメットも中学生に61年から義務付けられるようになり、一般は62年を猶予期間として63年度から着用が義務付けられた。